2025 年 7 月 4 日

生産・保全現場の困りごと・課題に挑んだ 101 の改善事例が集結！

第 53 回全国設備管理強調月間「改善事例発表大会 2025」開催レポート

2025 年度 6 月開催　～全国 7 地域における発表事例トレンド～

はじめに　～「改善事例発表大会」とは～

「改善事例発表大会」は、公益社団法人日本プラントメンテナンス協会（会長：河合 満[トヨタ自動車株式会社 Executive Fellow]）が、全国設備管理強調月間（毎年 6 月）の記念行事の一環として主催する、製造現場における改善活動を発表・共有する全国規模で開催するイベントです。現場で取り組まれた安全性向上、効率化、品質安定化、コストダウン、デジタル活用など多様な改善事例の発表を通じ、参加企業同士が“ヒント”を得て自社現場に持ち帰る機会を提供します。

1　製造現場における課題の”いま”を知る、ともに考える。

1.1　大会概要

改善事例発表大会 2025（2025 年度 6 月開催）は、全国 7 地域※1 で開催され、参加企業数 74 社、発表改善事例数 101 件を数えました。

製造現場でのデジタル活用（現場発信 DX）や自主保全、環境対応といった製造現場や設備管理上の問題・課題解決の取組みについてご発表いただきました。また、プログラムの後半には交流会（一部地域のぞく）を開催しました。

写真 1　熱気あふれる発表会場

写真 2　各発表の後は活発な質疑応答

写真 3　感謝楯の授与と記念写真

交流会は、発表時の質疑応答では質問できなかった点など発表者と聴講者が対面で理解を深める企画です。この交流会により企業間交流が始まるケースが多数あり、現場改善ノウハウの交流活発化に寄与する大変好評な企画となっています。

写真 4　発表事例ごとにブースを設け、発表者と参加者で活発な交流を展開

表彰式は、全国設備管理強調月間作品上位賞※2 ならびに本大会で選出された受賞事例※3 が表彰され、盛大に行われました。

各地域の最優秀発表に贈られる「優秀改善賞」受賞企業は、10 月 10 日（名古屋）にて開催の「優秀改善事例全国大会」※4 で発表いただき、「大会特別賞」受賞を目指します。

写真 5　優秀改善賞受賞者。次は優秀改善事例全国大会に臨む

写真 6　奨励賞 受賞者

写真 7　地域特別賞 受賞者

写真 8 全国設備管理強調月間 キャッチコピー部門受賞者

写真 9 全国設備管理強調月間 ポスター部門受賞者

写真 10 全国設備管理強調月間 作文部門受賞者

写真 11 地域委員長ごあいさつ

※1　全国を、東北・北海道、関東、北陸、中部、関西、中国・四国、西日本の 7 地域に分けて開催

※2　全国設備管理強調月間にて募集したポスター、キャッチコピー、作文の中から選出された金賞、銀賞、銅賞の受賞者を改善事例発表大会にて表彰

※3　改善事例発表大会の各地域の結果は、専用サイトへ（https://info-jipm.jp/event/kaizen/kaizen_kekka_kako/）

※4　優秀改善事例全国大会の詳細は、専用サイトへ（https://info-jipm.jp/event/excellence/）

1.2　開催スケジュール

2025 年度は、下記のとおり全国 7 地域で開催しました。

地域	開催日	開催会場
東北・北海道地域	6 月 20 日（金）	多賀城文化センター（宮城県多賀城市）
関東地域	6 月 25 日（水）	曳舟文化センター（東京都墨田区）
北陸地域	6 月 11 日（水）	富山国際会議場（富山県富山市）
中部地域	6 月 27 日（金）	ポートメッセなごや（愛知県名古屋市）
関西地域	6 月 13 日（金）	京都テルサ（京都府京都市）
中国・四国地域	6 月 17 日（火）	広島県情報プラザ（広島県広島市）
西日本地域	6 月 19 日（木）	海峡メッセ下関（山口県下関市）

2　発表データからみる現場改善のトレンド

2.1　年度別総発表件数

開催年度	合計	東北･北海道	関東	北陸	中部	関西	中国･四国	西日本
2023	**84**	6	10	5	31	12	10	10
2024	**90**	8	12	4	34	13	9	10
2025	**101**	10	10	7	38	14	13	9

上記は、新型コロナウイルス感染症終息による集合型開催、再開後の推移です。

ほとんど地域で年々、発表事例数が増加しており、現場改善の取組みに尽力いただいている方々へスポットライトを当てる大会としてご活用いただいています。人材不足のなかでも日々頑張っている従業員の方へのエンゲージメント向上の一環として大変有効な機会となっています。

2.2　内容別内訳推移

開催年度	DX･IoT 活用	環境･ｻｽﾃﾅﾋﾞﾘﾃｨ	生産性･効率化	品質･信頼性向上	人財育成･ｴﾝｹﾞｰｼﾞﾒﾝﾄ	ｺｽﾄ削減･その他
2023	24%	23%	21%	17%	11%	5%
2024	28%	24%	19%	13%	11%	4%
2025	30%	23%	15%	12%	10%	10%

上記は、全国 7 地域の発表事例のキーワードをもとにした集計です。各項目の事例実数は、増加もしくは横ばいの状況のため、割合で表現しています。

「生産性・効率化」「品質・信頼性向上」が減少しているように見えてしまいますが、「DX・IoT 活用」によりそれらを改善する事例は増加傾向です。「DX・IoT 活用」がさまざまな改善テーマに関連して活用されているため、現場の困りごとを解消する「モノづくり現場発信 DX」は、今後もさらに普及することが予想されます。

2.3　発表事例にみる分析と考察

上記の推移や、発表内容をもとにした分析と考察は下記のとおりです。

- □　DX・IoT 活用の事例は毎年増加し、2025 年度は全体の 30%を占めた
- □　「自主保全」のキーワードが 2025 年度に急浮上し、現場主導での課題発見・解決ニーズが高い
- □　人財育成・エンゲージメントは横ばいながら、DX・IoT 活用にともなう DX スキルを伸ばす人財育成が増加していると推察される。若者でも取り組めるデジタル改善は、エンゲージメントに寄与している

当会では、2025 年 11 月に次年度の改善事例発表大会などの全国設備管理強調月間の各応募を公開します。皆さまのご応募をお待ちしております。

（記　JIPM　奥富　弘樹・石橋　史江）